

樹材種を考慮した生産地点の選択と、生産、販売の連携による有利販売について

高山営林署 片田 恒幸
国政 史彦

1. はじめに

近年、住宅建築の不振で木材需要は大幅に減少し材価は低迷している。こうした事情が国有林材の販売にも大きく影響し、かつてない厳しい収入状況となっている。この苦しい状況のなかで如何にしたら経費を節減し有利な販売につとめ、増収を図れるかを考え、目新しい研究事項ではないが、生産現場と相互に連携しこれを実行に移した実施内容、①樹材種を考慮した生産地点の選択、②生産、販売の連携による有利販売について 結果を発表する。

2. 樹材種を考慮した生産地点の選択

新鮮材の供給及び、56年度の実績を分析した結果、最終生産へ低質材等が混入していた点を反省し、最終生産のメリットを考慮しつつ次のものは山元生産にて実行しその拡大につとめる。

○ 山元生産樹材種等（表-1）

山元生産を拡大するには盤台上での樹材種別仕訳が隘路となるため、盤台作設に工夫をこらして、仕訳が容易にでき山元巻立がスムーズに実行できるようつとめる。天然林についてはグラップルソー、人工林については選別ローラー、又はグラップルソーを最大に活用し「一般用材、小丸太、特木、パルプ材」をスムーズに仕訳している。山元での一般用材、低質材の判断は、採材研修を主体として機会ある毎に指導につとめ適正な判断力を養う。

その結果、最終生産の低質材前年度比較（表-2）、山元生産前年度比較（表-3）

素材運搬極積請負経費は前年度に対し、3,208千円、節減できた。

3. 生産、販売の連携による有利販売について

(1) 情報把握と速報を通じ即実行に移す。

貯木場及び生産、製品処分係が中心となり情報収集に努力しながら必要の都度、チラシ「採材の検討について」を発行し有利採材の指針とする。1例を紹介（図-1）

(2) 極積量の適正化

樹種別極積量により販売価格に及ぼす影響を分析し適正な極積量を知り、これを実行に移す。1例を掲げると、優良材の小量極積は（表-4）、業者の買入れ価格が手ごろになり買い易く地

域の業者にとっては有利な結果となり人気がる。

(3) キメ細い仕訳極積

市場の需要に応じた長級及び経級範囲により極積を実行する。1例を掲げる。(表-5)

特に木曽ヒノキ大径木、元の曲り腐れ等を打出した2m材の単極は目玉商品価値として人気最高である。

- (4) 高価な木曽ヒノキの材質低下を防ぐため日割れ防止用ボンドの活用や、種苗事業所より使用済のカンレイシャ、コモ等を再利用して日除けを施し、良材の木口割を防ぎ新鮮優良材の販売につとめる。これらに努力した結果(図-2)、木曽ヒノキ平均販売単価(表-6)の結果を上げることができた。

4. ま と め

貯木場、生産、製品処分係の連携のもとで市況の動向、情報収集につとめ生産現場の職員に公売結果などを、直接現場へ出掛けコミュニケーションを図りながら報告することによって、自分達が生産した材が、どのような結果で販売されたかを知ってもらう。このことが現場との連携を一層深め、採材方法や材価への関心をもたせることにより、研究心がわき生産意欲が向上し、有利採材の重要性について認識が高まる。このような結果、この不況下においても一応の経費節減を図りながら販売実績を上げることができる。

尚現在では現場へ市況の動向により指示すればすぐに実行してもらえる体制もでき上り、署をあげて有利販売に努めておるところである。

表-1 山元生産樹材種等

委 託 販 売 材
地 元 製 材 資 材 (随 意 契 約 分)
盤 台 跡 地 を 利 用 し た 一 般 材 (公 売)
小 径 木 (人 工 林)
低 質 材 (特 木 、 パ ル プ)
広 葉 樹

表-2

最終生産の低質材前年度比較	56(夏)	57(夏)
	578 m ³	73 m ³ 木曾ヒノキ特木

表-3 山元生産前年度比較

区 分		56	57	本年度増加量
N	一般用材	112 m ³	216 m ³	104 m ³
	一般用材(委託)	22	307	285
	低質材	61	398	337
L	一般用材	61	303	242
	低質材	565	642	77
計		821	1,866	1,045
山元率		18%	37%	

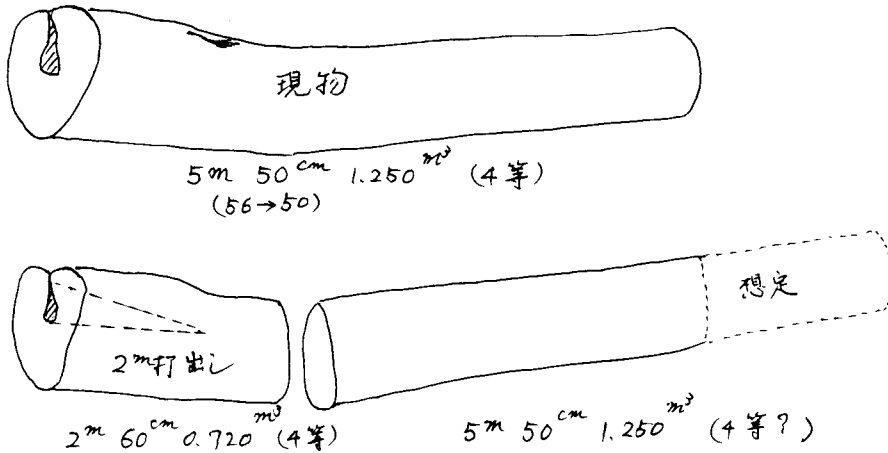
経費前年度に対し3,208千円節減

表-4 優良材小量極積

	長級 (m)	径級 (m)	品等	本数	材積 (m ³)	公売札数	m ³ 当り価格
木ヒノ	5	56	2	1	1,568	17枚	676千円
曾キ	5	30-38	3-4	12	7,030	19	236

採材の検討について
現場のみなさんへ
お願い。

ホウチノキの「打ち出し」を慎重に



- (1) 現物は欠点があり、元玉として売れません。
- (2) 2mの打ち出しをしても次に5mが採材できれば材積価格とも同じです。
(空胴が2mで止まる前提)
- (3) 空胴が2mで止まるかどうか?は長年の経験による判断が必要です。
- (4) 一番玉の空胴は径が大きいので材積が多く差し引かれます。
- (5) 片空胴の場合は材の長さの半分まで空胴として計算されます。

表-5 仕訳極積

	m	cm	品等	本	m ³	公売札数	m ³ 当り 価格
木 曾 ヒ ノ キ	5	30-50	4	26	20,234	10	182 千円
	3	30-60	3-4	51	21,233	13	105
	2	30-62	3-4	55	20,236	27	128
	8	34-44	3-4	3	4,423	11	315
	10	38	4	1	1,681	2	278

表-6

木曾ヒノキ平均販売単価	56 187,873 円	57 143,505 円	上昇額 5,632 円
上 昇 総 額	15,576,146 円		

図-2 材積低下、木口、日割れ防止

